

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告(平成28年度報告)

事業主体 尾鷲市鳥獣害防止対策協議会

1 被害防止計画の特徴等

尾鷲市では、主にニホンザル、ニホンジカ、イノシシの農作物被害や森林被害が多く、近年では生活被害も多発している。そこで、当市の被害対策の特徴としては、緊急捕獲事業による有害鳥獣の捕獲、防除対策、猟友会による一斉追い上げ、パトロール員による早急な追い払い、被害多発地区での勉強会等を実施しており、住民に獣害対策を理解していただき鳥獣害に強い集落づくり育成を目指し進めている。また、今後も猟友会の協力を得ながら、さらなる捕獲圧を高め、集落の地形にあった防護柵の施工方法の普及を行うとともに防護柵の改良や運用について研究を行っていく。

2 事業効果の発現状況

鳥獣被害対策実施隊によるパトロールの強化、追い払い、緩衝帯の設置、被害状況の把握により迅速な捕獲等を行うことで、被害の軽減が図られた。緊急捕獲事業の実施に伴い、個体数調整が図られたことで効果を実感できるようになり、農家の耕作意欲向上が確認できた。獣害対策研修会などを通じて地域住民の意識啓発を行うことで、獣害対策への理解が深まった。

3 被害防止計画の目標達成状況

捕獲圧の強化、獣害パトロール員と地域住民による迅速な追い払い、研修会等において地域住民に獣害対策の意識の向上を図ったことにより、おおむね目標に達成した。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始(ハード事業)	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画(改善)の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値(H28)	実績値(H28)	達成率	目標値(H28)	実績値(H28)	達成率		
尾鷲市鳥獣害防止対策協議会	尾鷲市	H26	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	捕獲檻購入、捕獲檻設置、獣害対策研修会、緩衝帯草刈、市内パトロール	一式	尾鷲市鳥獣害対策協議会		稼働率(小型用) 80%	獣害パトロール員による見回り、追い払いに加え、研修会等の実施により自治会等の地区単位で追い払いを実施する地域も出てきており、ニホンザル、ニホンジカ、イノシシの被害面積の軽減が図られ事業効果があつたと考えられる。	(対象鳥獣ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ) 14,460千円	(対象鳥獣ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ) 15,975千円	(対象鳥獣ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ) 77%	(対象鳥獣ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ) 248.3ha	(対象鳥獣ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ) 59.7ha	(対象鳥獣ニホンザル、ニホンジカ、イノシシ) 151%	獣害パトロール員による見回り、追い払い、獣害柵の強化を図るための緩衝帯草刈、捕獲等に加え、猟友会による一斉追い上げ、緊急捕獲事業による捕獲等により、鳥獣の駆除・捕獲の促進が図られたことで、有害捕獲頭数が増加し、複合的に捕獲圧を強化したことで、ニホンザル、ニホンジカ、イノシシの被害軽減が図られた。 また、地域住民に意識啓発を行なったことで、地域ぐるみで獣害対策に取り組む意欲を向上することが出来た。 しかしながら、森林内におけるニホンジカの皮剥ぎ被害が大変深刻になっており、被害金額に占める割合も、最も大きくなっている。ニホンジカの生息個数を抜本的に調整することが最優先と考えられることから、より捕獲圧を強めることが重要であると考えられる。	研修会による啓発で、地域ぐるみでの追い払い活動など獣害対策への意識高揚が図られてきた。しかし、被害金額は増加傾向にあり十分な成果が発現していない。今後、啓発活動を市内全域に展開するとともに、被害原因の分析と、具体的な対策を講じる必要がある。一方で、鳥類による被害が顕在化していることから、このことについても具体的な対策を検討する必要がある。
		H27	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	捕獲檻購入、捕獲檻設置、緩衝帯草刈、市内パトロール	一式	尾鷲市鳥獣害対策協議会		稼働率(サル用) 50%	獣害パトロール員による見回り、追い払い、捕獲等に加え、猟友会による一斉追い上げ、緊急捕獲事業に基づく捕獲による捕獲圧を強化したことで、ニホンザル、ニホンジカ、イノシシの被害軽減が図られた。								
		H28	ニホンザル・ニホンジカ・イノシシ	捕獲檻購入、捕獲檻設置、獣害対策研修会、緩衝帯草刈、市内パトロール	一式	尾鷲市鳥獣害対策協議会		稼働率(シシ用) 70%	研修会の開催により、獣害対策に取り組む意識が向上した。獣害パトロール員による捕獲、猟友会による一斉追い上げ、緊急捕獲事業による捕獲数の増加により、さらに捕獲圧を強化したことで、ニホンザル、ニホンジカ、イノシシの被害軽減が図られた。								

5 第三者の意見

本事業により捕獲に必要な機材を導入し活用することで捕獲力が向上し被害軽減につながっている。今後も導入した機材を有効に活用するとともに計画的に機材の整備を進めることで捕獲圧を高め、特に問題となっているシカ対策を進めていただくことを期待します。